

大学女性協会東京支部

2011.7
第50号



- ・「ともしび」25年分から得た支部活動のこれから
- ・東京支部総会報告
- ・知ってください、東京支部のこと 「支部会員の行動力」

机上の調査より
現実社会に沿いたい



東京支部長 小澤 紀子

東日本大震災余震が続く中、東京支部総会が無事に終了しました。委員一同、時間的ゆとりのない審議進行に恐縮しつつ、ご協力に感謝申し上げます。

さて、委員の任期は2年間ですが、現在のメンバーは4期8年間も勤めている方が半数近くおり、後継者を育てるためにも緩やかに交替する時期です。

会員や新委員を誘うためには、会員内外の方にJAUW64年間の実績と展望を説明しなければなりません。5月の薫風のなか、「ともしび」創刊号から最新の49号までを熟読し、回答を模索しました。

「ともしび」25年分から得た東京支部の実績を要約すると、①昭和22年前後に、戦前の女子の専門学校を大学に昇格させたこと、②国内および国外奨学金制度を設けたこと、③

女性の社会的役割に関する調査研究をしてセミナー等で発表したこと、④講演会や見学会を企画したこと、であり、東京支部は創生期から本部と密着して行動しておりました。「ともしび」からは、東京支部が支部としての確固たるやりがいや独自性を持つことが難しいという記載が少なからず見られました。

社会運動を進める手法には二つあり、一つは調査研究啓発、もう一つはローカルであっても実践に徹するというものです。初期のJAUW路線は、学制改革という大目標があり、実践に突入しました。活動が安定期に入ると調査研究になりました。年月を経て、先輩諸姉の築いてきた活動を踏襲してきた今、会員たちは、新たな課題を持つ社会とこの協会がどのように関わっていけばいいのか模索しているように思えます。

平成5年発行「ともしび」13号には、支部への要望として、①実際に社会に貢献する活動を、②会員同士の交流の場を、③若い人の入会を促進するように、ということがあがっており、本部へは①PRに力を入れてほしい、②机上の空論ではなく国内外に実際に貢献すること、という要望が寄せられています。

会の活動方針が調査研究かまたは

実践かを明示してこそ、会員は友人に声かけができます。

東日本大震災で破壊された原発施設を撮影するために投入されたロボットがアメリカ製と聞いたときは絶句しました。日本製のもの、二本足歩行や自転車にも乗れるような優秀な性能を持つているのに、いざ放射線(電磁波)に曝され、足元が平坦ではないという過酷な環境では実力を発揮する保障はできないという解説がありました。

振り返って、JAUWと東京支部を考えると、優秀な人材を抱えているのに、複雑な実在に社会に機能することができていないのだろうかとも思えるのです。

ともあれ、東京支部総会で承認いただきました路線に沿って委員一同精一杯実行してまいります。参加と支援をお願い申し上げます。

東京支部国際奨学金
2011年度募集

問合せ先
大学女性協会
東京支部国際奨学金係
TEL 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889
E-mail: jauw@jauw.org

ご推薦やご紹介お待ちしております!

〈東京支部総会記念講演〉

(11・4・16)

「女性の力と高等教育、そして急速原発と放射線のこと」

講師 久米 健次氏



まだ余震の続く中ではありましたが、久米健次前奈良女子大学学長の講演をお聞きすることができた。歩みの遅い男女共同参画の一方で少子高齢化は速いスピードで進んでいる。仕事と家事、育児支援体制がまだまだ整っていないため女性の管理職は少なく、制度化して女性研究者を増やそうとしているがなかなか増えてこない。20歳代では8割くらいの方が働いているが、育児などのため仕事を止め再び仕事をはじめるといふM字カーブとなる。女性をとりまく多くの課題の中、産業界における人材の要請は、今までは均一な

労働力確保であったが、最近では多様化してきている。即戦力を要求されたり、外国人の採用により国際競争にさらされることになったりする。大学としてはどういう人材を養成したらいいかとまどつている。大学では専門教育が問題が少ないように思われるが、ガイダンス的になりやすい教養教育をどうするか、キャリア教育においては学生に動機付けまで教育するかは疑問である。女性の高等教育についてはユーモアをまじえながらも熱く語られた。

次に物理学者で原子核の専門家である小澤紀子先生に小澤支部長が原発についてのお話をお願いし、急速加わった。放射線は原子核から出る。そしてベクレルは1秒間に何個の原子核がこわれて放射線を出したかであり、シーベルトは物質や人が放射線から受ける影響を測る単位など、新聞やTVで目にしながらもはつきりしなかったことを説明してください。最後に「将来国際的にエネルギー問題として原発を考えねばならない」と締めくくられた。とても重い内容にもかかわらず、久しぶりに大学の講義を受けたようなすがすがしいひと時だった。

2011年東京支部総会は4月16日(土)、津田ホール内会議室で開催された。3月11日の東日本大震災から約1ヶ月、余震の続く中での総会となったが、50名の出席者と100名の有効委任状提出があり、計150名で総会は成立した。小澤紀子支部長から、東京支部会員のうち4名の方が今回の震災の被害に遭われ、うち1名とまだ連絡が取れていないとの報告があった。続いてJAUW青木会長から今回の災害支援のための募金を行うこと等のお話があった。

〈東京支部総会報告〉

書記 早瀬 暢子

議事にはいり、2010年度事業報告、決算報告、および会計監査報告が承認され、ついて2011年度事業計画案、予算案が審議・承認された。2名の



新委員の紹介後、議事は終了した。続いて、阿部幸子副会長から「法人改革とJAUWの今後」と題して一般社団法人への移行についていねいな説明があった。最後に元奈良女子大学学長久米健次氏による「女性の力と高等教育」と題する記念講演があり、総会は無事に終了した。

事業報告・予定

4・16 東京支部総会

記念講演 「女性の力と高等教育」
講師 久米健次氏5・14 JAUW第54回通常総会
於・岡山6・29 講演会「香入門」
講師 今井麻美子氏7・25 東京支部会報「ともしび」
第50号発行10・15 JAUW全国セミナー
於・国立女性教育会館11・25 講演会 講師 稲井巡氏
新春のつどい・国内奨学金贈呈式3・25 東京支部会報「ともしび」
第51号発行

以後の事業は追ってお知らせします。

〈第54回通常総会報告〉於岡山

「支部それぞれの不安と期待と」

副支部長 堀内 洋子

第54回全国総会に先立ち5月14日午後1時より評議員会、それに続いて公開支部懇談会が開かれ、各支部からの活発な意見が交換された。

さて支部の一番の関心事は本部・支部の一元化によって事業活動がどのようになるか、ということだ。阿部副会長の説明によると、支部の活動は何ら変わることはなく、むしろ親睦、啓発が自由にできるようになり、独自の支部活動もより活発に行えるようになる。収益事業も可能だ。しかし今の段階では活動内容の具体的なイメージが浮かんでこなくて不安だ、という声がかれた。本部の様々な委員会が行う調査研究、セミナー等に積極的に参加し、それを通じて支部相互の情報交換と共同研究が可能な態勢を目指したい、というのが本部の意向だ。発表のみならず運営への参加も強く望まれている。ただ、活動の中核が東京に集中していることには不満もあるようだ。ある関西の支部からは、関西圏の数支部が関西連合のような形をと



り事業の一部を担っていけないものか、という意見も出されていた。本部と支部が一つの事業体となつて活動するため会費も一元化される。支部会費は支部によって徴収金額に差があつたため、その最低額千円に6千円を加えた7千円が会費となつたが、そのうち千円は補助金として還付される。結局は今までと変わらないのだが値上がりしたような印象があり新会員を誘いにくいという声もあがつていた。また、本部への6千円をもう少し安くしてほしい、という声もあつた。会員の減少と高齢化は共通の悩みだ。少人数の支部は当然収入も少なく活動が制限される。来年度には活動資金が足りなくなる、どうしたらいいか、という切実な訴えも聞かれた。これからは収益に結びつく企画が不可欠なのだろう。

〈岡山支部主催見学会〉

美術館めぐり

5月16日、総会後の美術館見学会が発する。最初は「岡山市立オリエント美術館」で、メソポタミア風の

見事な建物の中に入ると高い吹き抜けのあるホールがあり、異国情緒がただよう。講堂で館長の谷一氏にお話を伺う。西日本のオリエント研究の拠点として、シルクロード周辺の文化の紹介などもされているのとこの。屋上に空中庭園を模したような花壇。古代小麦の栽培などを見学しながら街を一望する。



外に出ると、このあたりは「岡山カルチャーゾーン」と呼ばれている地域。緑の葉が美しく映える街路樹の下に「烏城みち」と古い石柱が残り、あちこちに見られる石垣は城下町のゆつたりとした情緒をかもしだしている。昼食のレストランでは岡山支部の方も多く参加され、活発な支部活動のお話も聞くことができた。

林原美術館は長屋門から入ると、岡山城が松の木立越しに眺められる。ここは国宝の刀剣などで有名であるが、今回は大扉風の解説を聞きながら見せていただき、旅の良い思い出となった。(福田 文子)

〈第13回守田科学研究奨励賞贈呈式〉

6月4日アルカディア市ヶ谷にて守田科学研究奨励賞贈呈式が行われた。故守田純子先生が自分の後に続く女性の科学研究者のために基金を設けられて今年13回目。荒井緑博士と島田緑博士の受賞となった。

荒井博士は薬学、天然物を機軸とする脳神経再生と癌克服のためのケミカルバイオロジー研究、島田博士は細胞生物学、染色体安定維持機構の研究、再生医療、癌治療への応用を目指して研鑽を積んでおられる。なお両博士の経歴や業績についてはJAUW会報242号に詳しく掲載されている。受賞講演後の質疑応答やパーティーを通じ、日頃より昼夜を分かたぬ研究はそれを優しく力強く支える家族の協力があつてこそで、そのためにもこの守田科学研究奨励賞がもつと世に広く知られてほしいと思つた。(酒葉美智子)

〈東京支部主催見学会〉

(11・2・24)

「環七地下調節池」

善福寺川取水施設見学」

都市の水害を防ぐために環状7号線の地下40～50mに作られた総延長4.5kmの巨大トンネルの見学に参加しました。

まず映像を使い善福寺川の水位が上がった際の取水、貯水、排水システムの説明を受けました。地上の管理棟には監視室があり、モニター画面で川の様子を見ながら様々な操作を行います。職員の方は大雨警報が出されるとここに召集され、洪水対策の操作を行います。

次はいよいよ地下施設の見学。機



械棟のエレベーターで地下43mまで下り、ポンプが置かれている半円形の部屋に到着です。給排気のファンの音だけが聞こえ、水の匂いがしました。そこから調節池と呼ばれる水を溜める池とトンネルに向かいます。

映画で見る潜水艦の入り口のような扉を通りひとりずつ下に降りていくと、調節池が見えます。川からドロップシャフトという方法でこにまず取水します。この方法は水を回転させながら池に落とすことによつて落下音が軽減されるそうで、ちょうどペットボトルをまっ逆さまにして水を出すのと同じ考え方だそうです。池から続く内径7mのトンネルをしばらく進むと、さらに大きなトンネルに出ます。これが環七の下にある内径12.5m長さ4.5mの水を溜める巨大なトンネルです。中は文字通り真っ暗で、職員の方のライトだけが頼りでした。今は水が無いので不思議な巨大空間がずっと先まで続いています。トンネルの中央部の溝に水が流れており、小魚が見え、川と繋がっているのが分かります。11年間で23回トンネルに流入があり、流域の浸水を防いだそうです。川の水位が下がると溜められた水はポンプで汲み上げられ川に戻されます。流

域の都市化、コンクリート化で雨水は川にだけ流れ込むようになり、大雨の度に起こる浸水の被害は、このような近代的施設によつて防がれていることを実感しました。

(横橋 貴子)

〈東京支部講演会〉

(11・6・29)

「香」入門

時代を遊び香りを楽しむ」

講師 今井麻美子氏



6月29日お香の講座を開催しました。当日は灼熱の太陽が照りつけ、ご来場いただいた方々に、まずは冷茶

をお勧めするという暑い日でした。今回の講座は香木を薫いて開香を旨とする通常知られている香道ではなく、白檀や桂皮、安息香といった天然香料を十数種類調合して香を作り、匂い袋にするというものです。始めに香木の歴史や香の文化がどのように発展してきたかを学び、制作にとりかかりました。先生の指示

される各種香原料を、甘い系、すっきり系、中間系の3つに振り分けて調合していきます。分量を計る器具はさじです。さじ1杯、1/2、1/4といった具合です。この時計り方次第で多少の誤差がでます。この誤差つまりさじ加減で、同じものを作っても香に微妙な違いが生じます。これが調合の面白味でもあります。

「あなたのは私のより少し甘い香りがする」とか「私の方がすっきり感が強い」とか、あちこちで互いの香りを比較しては驚きの声が上がります。こうして、世界にただ一つしかない私の匂い袋ができあがりました。ご参加いただいた方々から、「めったにできない体験をして大変楽しかった」という声をたくさんいただき、主催者側としてうれしい限りです。

ストレスの多い現代社会にあつて忘れかけていた和の香りを今一度思い起こし触れてみるのも大きな癒しとなるでしょう。和の香りには心の求めに添えてくれるだけの深い香りがあります。

講座が終る頃、教室は香りで満ち、一時的暑さを忘れさせてくれる清涼感に溢れていました。

(竹井香州子)

支部会員の行動力

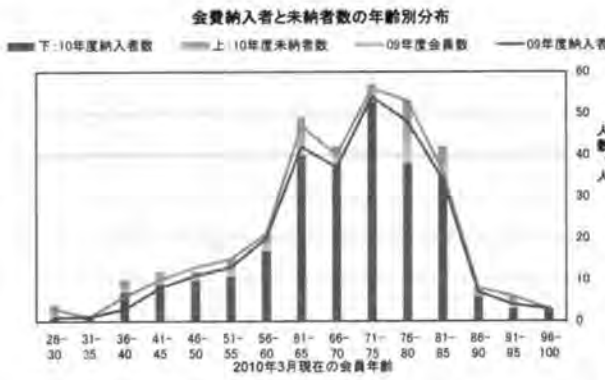
ー知ってください、

東京支部のことー

前回は支部会費三千円の使途について円グラフで伝えました。

今回は会員の年齢別構成から会の体力を見、支部会費納入状況から活動に対する関心を推察して、支部の活性化を図る参考にしたいと考えました。

使用した会員名簿は2010年度末のもので、生年不明の10名を除いて対象会員数は、2010年度は



325名、2009年度は320名です。年代は5年間で1グループとして横軸にとりました。

折れ線グラフは2009年度データを表し、棒グラフは2010年度データです。したがって折れ線から棒へ追いかけると一昨年度から昨年度への変化をみる事ができます。

(1) 年齢別構成

両年度とも会費納入者数と未納者数を分けて示しました。納入者と未納者を足すと5年齢毎の会員数となります。

一昨年と昨年度の会員の年齢分布は同じです。61歳から85歳までの会員が243名、75%を占めています。横浜でIFUW世界大会を開催したのは1996年。当時この方々は46-70歳でした。その時の意気軒昂たる女性力が今も続いているのでしよう。60歳より若くなると急に会員が減っています。この世代は男女不公平感が薄らぎ、進学し職業婦人になりました。仕事以外に費やす時間的ゆとりはありません。協会の活動時間帯や仕事量を再検討する時期にあると考えます。

(2) 会費納入状況
会費を納める行為は関心度をはかるバロメータです。86歳以上でも年会費9千円をいただいています。

未納者の人数は一昨年に比べて昨年度はどの年齢グループでも増えており、これは会費支払いが継続し難いことを意味します。

60歳以下の会員の増強を図るためには過去の実績に敬意を払いつつ、現代の風を読んで、これからの活動方針を考えねばなりません。

〈今年度からの新委員〉

どうぞよろしく。

4月から委員に加えていただきました。微力ではありますが、先輩方に教えていただきながら、精一杯努めたいと思います。よろしくお願いたします。

(深沢里沙子)

サークル紹介

★英語講座

連絡先・宮下好子
(☎03-3341-1375)

★源氏物語を読む会 (I)
源氏物語クラス「若葉」より
連絡先・堀内洋子
(☎045-1983-4680)

伊勢物語クラス
連絡先・木村和子
(☎03-3332-8496)

★源氏物語を読む会 (II)
連絡先・中山律子
(☎03-3336-4628)

★水墨画教室
連絡先・森川淳子
(☎045-1583-3430)

★東京支部の
東日本大震災義援金について
4月16日の東京支部総会から義援金募集箱を設置、6月30日迄に35,850円が集計されました。

この寄附金は新たに設置されたJAUWの東日本大震災災害地支援事業 特設委員会に引きつぎました。ご支援ありがとうございました。

住所等ご変更の場合は、事務所までお知らせください。

使用済みの切手を事務所までお送りください。

会費未納の方は、用紙の「振込みのご案内」を参照の上、どうぞお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

(編集後記)
大震災後4ヶ月。猛暑の中、ともしび50号が仕上がりました。担当者4人楽しい作業でした。皆様どうぞご愛ください。(S・A・O・H)



ともしび 五〇号 発行日 二〇一一年七月二十五日 発行 社団法人大学女性協会東京支部 編集ともしび係

〒160-0001 新宿区左門町十一番六、一〇一

Tel 03-3333-5822 印刷 タナカ印刷株式会社 Fax 03-3333-5822